

実体経済の動向

◇生産の上昇続く

需要の根強い増加にささえられて、生産活動は相変わらず高いテンポの拡大を続けている。すなわち、本年初来4ヵ月間の動きをみると、生産は月率+1.5%の増加を示し、昨年10~12月(月率+1.5%)と同様の勢いで伸びている。他方、出荷の増加率は月率+1.0%と生産に比べやや低目となっており、このところ出荷の増加に先行して生産が拡大する形となっている。これは、増設設備の完工などにより生産能力の増加テンポが高まり、ひところ需要の急速な増加に追いつきかねていた供給がわの態勢が、次第にゆとりを取り戻しつつあることが響いているものとみられる。

もっとも、この間における需要面の動きをみると、以上のとおり出荷の伸びが生産のそれをやや下回っているとはいえ、需要の拡大テンポがここへきて格別変化したとはみられない。すなわち、官公需は、公共事業関係費支出の動き(1~4月平均支出額は昨年10~12月平均に比し-1.2%)などからみて、景気支持要因としての役割が上期に比べ後退し、また、輸出もこのところ伸び悩んでいる(1~4月平均通関輸出額は昨年10~12月平均に比し-1.9%)。しかし、その反面、最近における民需の盛り上がりを大きくささえてきた民間設備投資は、一般資本財出荷の顕著な増加傾向(3ヵ月移動平均値の対前月比、1月+1.1%、2月+1.8%、3月+2.3%)や機械受注(海運を除く民需)の根強い増勢などからみて、相当のテンポで拡大を続けているものとみられる。また、民間在庫投資も仕掛品在庫や原材料在庫が引き続き増加傾向を示しているうえ、流通在庫も年初来かなりの増勢をみせ、また、製品在庫についても意図せざる在庫減の埋め合わせがようやく行なわれつつあるとみられることなどから、在庫投資全体としてはこのところいくぶん増勢を加えているように

思われる。さらに、個人消費も百貨店売上げや銀行券発行高の動きなどからみて、これまでの増加基調にとくに変化はないものとみられる。

(生産——根強い増勢を持続)

3月の鉱工業生産(季節変動調整済み)は、2月に減少した(前月比-1.6%)あと、前月比+3.4%と月間の伸びとしては39年9月(+4.1%)来の大幅増加を示した。この結果、1~3月の対前期比増加率は+4.6%と昨年10~12月並みの増加となり(4~6月+4.2%、7~9月+5.7%、10~12月+4.5%)、また、年度平均の増加率は+15.8%に達した。3月の動きを特殊分類別にみると、各財とも増加したが、とくに一般資本財は、前月著減した金属加工機械、運搬機械、化学機械の反動増や電力向け大型機械、繊維機械等の増加から、前月比+10.7%と著増したのが目立った。このほか、建設資材(+3.8%)はセメント、製材、亜鉛鉄板を中心に、耐久消費財(+3.0%)も小型四輪車、自転車、家庭用電機(扇風機、洗たく機)を中心に、それぞれ大幅に増加し、生産財(+2.4%)も鉄鋼、非鉄、化学、化合織を中心に相当の増加となった。さらに、資本財輸送機械(+1.8%)も乗用車、小型トラック、鉄道車両を中心にかなりの増加を示し、非耐久消費財(+1.7%)も医薬品、写真感光材料等を中心に4ヵ月ぶりに増加した。

4月の鉱工業生産(季節変動調整済み、速報)は、前月著増(+3.4%)のあとも、+1.8%とかなりの増加を示し、高いテンポの増勢が続いている。4月の動きを特殊分類別にみると、輸送機械を除いて各財とも増加した。すなわち、耐久消費財(+3.5%)は夏物家庭用電機(扇風機、冷蔵庫)や精密機械(カメラ、時計)を中心に大幅に増加し、非耐久消費財(+1.6%)も紙・パルプや化学(石けん、印刷インク)を中心に増加した。また、一般資本財(+1.6%)は、運搬機械、化学機械等が大幅減少を示したものの、電動機器(汎用モーター等)、発送配電機器等が著増したため増加し、建設資材(+0.7%)もセメントの減少にかかわらず、鉄構物の著増が響いて昨年11月来の増勢を持続した。さ

鉱工業生産の動向

(季節変動調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	41年				42年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月	4月
鉱工業指数	189.3	200.0	209.0	218.7	215.1	222.4	226.4
前期(月)比	4.2	5.7	4.5	4.6	-1.6	3.4	1.8
前年同期(月)比	9.1	14.3	19.3	20.4	19.5	21.2	21.5
投資財	3.2	5.8	5.5	9.1	-0.8	5.7	-0.4
資本財	2.5	6.3	6.3	10.5	-1.7	6.1	-0.8
同(輸送機械を除く)	5.4	2.9	8.6	6.6	-4.4	10.7	1.6
輸送機械	-1.1	12.1	2.8	14.4	1.9	1.8	-4.0
建設資材	4.4	5.7	2.5	4.2	0.6	3.8	0.7
消費財	1.3	3.4	3.7	-1.6	-3.4	2.3	2.7
耐久消費財	2.7	7.5	6.1	4.8	-4.5	3.0	3.5
非耐久消費財	1.6	1.5	2.7	-4.4	-2.8	1.7	1.6
生産財	5.5	5.7	4.6	5.8	-0.5	2.4	0.9

(注) 通産省調べ、42年4月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

らに、生産財(+0.9%)も鉄鋼(鉄鉄、粗鋼、鋼材)、化学が減少した反面、石油、一般機械(汎用内燃機関、ドリル)、非鉄金属製品等を中心に増加した。一方、輸送機械は、四輪車(トラック、バス)、三輪トラックの減少に加え、鋼船(-5.8%)もかなりの減少をみたため、-4.0%の減少となった。

(出荷—4月は一時的要因により横ばい)

3月の鉱工業出荷(季節変動調整済み)は、生産と同様、前月に減少(前月比-2.0%)のあと、前月比+2.0%と再び増加した。この結果、1~3月の対前期比増加率は+4.7%と相当のテンポで増加し、年度平均の増加率も+15.1%に達した。3月の動きを特殊分類別にみると、耐久消費財が著減したほかは各財とも軒並み増加した。すなわち、一般資本財は、前月減少の目立った金属加工機械、運搬機械、化学機械の反動増をはじめ、発送配電機器、繊維機械等の大幅増から+7.9%と著増した。また、資本財輸送機械(+3.2%)は乗用車、小型トラック、鉄道車両の増加から、建設資材(+3.0%)もセメント、製材、亜鉛鉄板の増加を中心にそれぞれ大幅に増加した。このほか、生産財(+1.4%)は化学製品、鉄鋼を中心に、非耐久消費財(+1.1%)は医薬品、たばこ等を中心

に増加した。一方、耐久消費財は精密機械がカメラの売行き不振から大幅に減少したうえ、従来3月に集中していた夏物家庭用電機の出荷が本年は4~5月にかけてならされた動きをみせていることもあって、前月比-7.1%の大幅減少となった。

4月の鉱工業出荷(季節変動調整済み、速報)は、前月比横ばいとどまった。このところ出荷の足取りは月によりフレが大きいのが、当月的出荷停滞には鋼船や動植物油脂の出荷急減という特殊事情が大きく響いているほか、財政需要が暫定予算の関係等から出遅れていることなどを考慮すると、これまでの増加基調に格別の変化が生じたとはみられない。4月の動きを特殊分類別にみると、耐久消費財(+16.5%)が夏物家庭用電機の出荷増(例年は3月がピーク、本年はピークが3、4月にかけてならされた)を映じて著増した反面、資本財輸送機械(-7.4%)が鋼船(-17.3%)の急減をはじめ四輪車(乗用車、トラック)、三輪トラック、鉄道車両の減少などを映じて大幅に減少したのが目立った。このほか、一般資本財(+1.9%)は、生産と同様運搬機械、化学機械等がかなり減少したものの、電動機器(とくに汎用モーター)、発送配電機器、土木建設鉱山機械等が著増したた

鉱工業出荷の動向

(季節変動調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	41年				42年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月	4月
鉱工業指数	187.8	192.6	203.1	212.7	209.9	214.1	214.2
前期(月)比	4.8	2.5	5.5	4.7	-2.0	2.0	0
前年同期(月)比	11.7	12.3	17.8	18.7	18.0	19.5	14.8
投資財	3.6	-0.6	9.1	9.6	-2.0	4.7	-2.2
資本財	3.3	-2.0	11.1	12.0	-2.7	5.2	-2.6
同(輸送機械を除く)	6.1	1.3	8.7	6.5	-2.8	7.9	1.9
輸送機械	0.3	-3.8	10.5	19.2	-2.8	3.2	-7.4
建設資材	3.9	3.8	3.9	2.2	0	3.0	-0.2
消費財	4.2	2.0	3.2	-1.4	-1.6	-0.9	4.3
耐久消費財	11.8	6.1	3.5	-3.6	-2.0	-7.1	16.5
非耐久消費財	1.9	0.8	3.0	-0.4	-1.3	1.1	-0.1
生産財	6.2	4.8	4.1	5.0	-1.3	1.4	0.5

(注) 通産省調べ、42年4月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

め、かなり増加した。この間、生産財(+0.5%)は、石油、非鉄、機械(変速機、ドリル)等の増加にかかわらず、動植物油脂(主として鯨油)の激減(-46.0%)から化学が減少したため、また非耐久消費財(+0.1%)も紙・パルプ、食料品が増加した反面、繊維製品、化学(印画紙、洗剤)が減少したため、いずれも微増にとどまった。一方建設資材(-0.2%)は、鉄構物が著増したものの、セメント、亜鉛鉄板等が減少したため微減した。

(在庫——製品在庫は増加きみ、原材料在庫投資のテンポ高まる)

鉱工業製品在庫(季節変動調整済み)は、2月に微減した(前月比-0.5%)あと、3月は+1.9%とかなり増加した。3月の動きを特殊分類別にみると、耐久消費財が前述した夏物家庭用電機出荷の季節パターンの変化を映じて、前月比+10.9%と著増したほか、資本財輸送機械(+3.5%)もトラック、バス、三輪トラック等を中心に引き続き大幅に増加した。また、生産財(+1.8%)は鉄鋼、非鉄、機械を中心に、建設資材(+1.1%)も製材、亜鉛鉄板の増加からそれぞれ増加した。他方、一般資本財(-1.6%)は金属加工機械、繊維機械等出荷増の目立った機種を中心にかなり減少し、非耐久消費財(-0.7%)も繊維製品の減少から微減した。

上記のような出荷、在庫の動きを映じて、3月の製品在庫率は前月比-0.1%(在庫率指数105.0)とほぼ横ばいに推移した。

4月の鉱工業製品在庫(季節変動調整済み、速報)は、前月にかなり増加(+1.9%)したあと、+0.9%と引き続き増加した。最近の動きを3か月移動平均によってならしめてみても、1月-0.3%、2月+0.7%、3月+0.8%とゆるやかながら増加基調にあるようにかがわれる。4月の動きを特殊分類別にみると、一般資本財(-2.2%)が一般機械、電気機械を中心にかなり減少したほかは各財とも増加した。すなわち、建設資材(+2.9%)は、亜鉛鉄板、板ガラス等を中心に、資本財輸送機械(+2.3%)は三輪トラックを中心に、ま

鉱工業製品在庫の動向

(季節変動調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減率・%)

	41年			42年			
	6月	9月	12月	3月	2月	3月	4月
鉱工業	221.4	224.8	220.3	224.9	220.7	224.9	227.0
指数							
前期(月)末比	-3.3	1.5	-2.0	2.1	-0.5	1.9	0.9
前年同期比	-0.5	-2.9	-2.4	-1.7	-1.4	-1.7	2.2
製品在庫率	116.7	115.0	107.0	105.0	105.1	105.0	106.0
指							
投資財	-4.5	7.3	-2.8	1.0	-0.8	0	0.1
資本財	-5.0	9.2	-2.7	-0.5	-1.1	-0.9	-1.2
同(輸送機械を除く)	-7.4	3.7	1.2	-3.6	-3.0	-1.6	-2.2
輸送機械	-1.9	29.3	-9.8	9.6	3.1	3.5	2.3
建設資材	-3.0	3.6	-3.8	4.7	0.7	1.1	2.9
消費財	-4.7	-0.2	-1.0	4.7	-0.8	3.1	1.1
耐久消費財	-9.8	-3.4	0.6	21.6	2.3	10.9	2.7
非耐久消費財	-3.1	2.3	1.8	-5.0	-2.9	-0.7	1.2
生産財	-1.2	-0.2	-4.0	1.9	0.9	1.8	1.2

(注) 通産省調べ、42年4月は速報。
前年同期(月)末比は原指数による。

た、耐久消費財(+2.7%)は軽乗用車、自転車を中心に、それぞれ大幅に増加した。このほか、非耐久消費財(+1.2%)は紙・パルプ、繊維、たばこ等の増加から、生産財(+1.2%)も化学を除く各業種で増加したため、いずれも増加した。

上記のような出荷、在庫の動きを映じて、4月の製品在庫率は+1.0%(在庫率指数106.0)と上昇した。特殊分類別にみると、このところ上昇が目立っていた耐久消費財はかなり低下したが、反面、資本財輸送機械や建設資材の上昇が目立ち、また、生産財、非耐久消費財も若干上昇した。

メーカー原材料在庫(季節変動調整済み)は、1月、2月と2か月続いて増加したあと、3月(速報)も+1.7%と引き続きかなりの増加を示した。この結果、前四半期末との対比では+4.7%とかなり大幅な増加(6月+2.2%、9月+0.9%、12月+2.4%)となり、原材料在庫投資のテンポはこのところ多少とも高まる傾向をみせているようである。3月の動きを特殊分類別にみると、輸入素原材料が鉄鉱石、銅鉱石、綿花、ボーキサイト等を中心に+4.9%と著増したのが目立った。他方、国産製品原材料は、繊維二次製品メーカーの織物・

糸在庫が著増したものの、機械メーカーの鋼材在庫、染色整理段階の織物在庫、織物業者の糸在庫などがいずれも減少を示したため、全体では-1.3%の減少となった。一方、原材料消費(季節変動調整済み)は、生産の動向とほぼ見合って、2月に前月比-0.9%と久方ぶりに減少したあと、3月は+2.5%と再びかなりの増加を示した。これを業種別にみると、皮革、紡績等ごく一部を除き、鉄鋼、機械、化学、化繊等ほとんどの業種で増加した。以上のような在庫、消費の動きを映じて、原材料在庫率は前月比-0.7%(在庫率指数66.8)と再び小幅の低下を示した。もっとも、原材料消費の動きを3ヵ月移動平均によってならして見た在庫率指数では、12月66.6、1月66.5、2月66.6とほぼ横ばいに推移しており、昨年来の低下傾向はこのところいくぶんの変化がうかがわれる。

次に、販売業者在庫(季節変動調整済み)は、1月に前月比+1.6%と増加のあと、2月(速報)も+2.9%とかなり増加した。最近の動きを3ヵ月移動平均によってならしてみても、11月-0.4%、12月-0.2%、1月+1.2%とこのところ若干増加きみとなっている。2月の動きを財別にみると、製品は鋼材(+20.2%)が前月に引き続き著増した

製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節変動調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	41年		42年	42年		
	9月	12月	3月	1月	2月	3月
在庫指数	131.7	134.8	141.1	136.6	138.8	141.1
前期(月)末比	0.9	2.4	4.7	1.3	1.6	1.7
素原材料	-2.2	1.7	7.0	-0.4	1.7	5.6
うち輸入分	0	5.1	6.2	-1.1	2.4	4.9
製品原材料	3.7	3.0	2.8	2.9	1.3	1.3
うち国産分	3.5	3.5	2.9	3.0	1.2	1.3
在庫率指数	69.3	66.8	66.8	65.7	67.3	66.8
素原材料	68.2	65.5	66.4	63.1	65.4	67.7
うち輸入分	68.0	66.3	67.8	64.1	66.5	67.8
製品原材料	73.4	70.6	69.7	71.3	72.8	69.7
うち国産分	72.8	70.3	69.5	71.1	72.6	69.5

(注) 通産省調べ、42年3月は暫定。

販売業者在庫の推移

(季節変動調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	41年			41年	42年	
	6月	9月	12月	12月	1月	2月
総合指数	197.1	200.3	197.6	197.6	200.7	206.5
前期(月)末比	-4.3	1.6	-1.3	-0.8	1.6	2.9
素原材料	5.9	6.9	16.1	10.6	1.7	2.2
製品	-5.0	1.0	-4.7	-2.1	1.7	3.5

(注) 通産省調べ、42年2月は暫定。

ほか、自動車、洋紙、織物等もかなりの増加を示したため、+3.5%と大幅に増加した。また、素原材料も繊維原料、石炭、生ゴムの増加を中心に前月比+2.2%と増勢を持続した。

(設備投資—かなりのテンポで増加)

設備投資関連指標の動きをみると、まず一般資本財出荷(季節変動調整済み)は、1~3月に前期比+4.7%と増加したのち、4月(速報)にも+1.9%と、依然として根強い増勢を続けている。

一方、設備投資の先行指標である機械受注(海運を除く民需、季節変動調整済み)の動きをみると、3月には機械メーカーが期末のかさ上げ受注をとくに行なわなかったこともあって、前月比-17.8%と大幅減を示したが、4月にはその関係から+43.7%と著増した。ちなみに原計数では、

需要先別機械受注の推移

(季節変動調整済み、月平均、単位・億円)

	41年		42年	42年		
	7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月	4月
民需	843	990	1,179	1,225	1,126	1,350
	(+16.1)	(+17.5)	(+19.1)	(+3.3)	(-8.1)	(+19.8)
同(除海運)	728	890	1,060	1,124	924	1,327
	(+9.9)	(+22.3)	(+19.1)	(-0.8)	(-17.8)	(+43.7)
製造業	357	527	631	697	520	860
	(+5.5)	(+47.6)	(+19.7)	(+3.1)	(-25.4)	(+65.4)
非製造業	485	459	536	517	594	543
	(+24.0)	(-5.4)	(+16.7)	(+4.1)	(+14.9)	(-8.5)
同(除海運)	321	362	421	419	402	483
	(+15.4)	(-2.6)	(+16.4)	(-5.0)	(-4.0)	(+19.9)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

なお、季節指数の変更に伴い、従来の季節調整済み計数はすべて改訂された。

3月1,249億円、4月1,193億円とほぼならされた形となっている。4月の動きを業種別にみると、製造業が、鉄鋼、自動車、化学等を中心に+65.4%と前月の落込み(-25.4%)を補ってあまりある激増を示し、非製造業(海運を除く)も電力の増加を主因に+19.9%と相当の増加を示した。

また、同じく先行指標である建設工事受注高(民間産業)の推移をみると、1~3月には前年同期比+41.7%と高水準を維持したあと、4月(速報)には+82.5%と一段と増勢を強めている。

このような設備投資関連指標の動きから推して、設備投資は引き続きかなり高いテンポの増勢が続いているものとみられる。

◇商品市況は綿糸が暴騰、反面、鉄鋼は軟調

4月から5月前半にかけての商品市況をみると、綿糸が市場人気の過熱化から暴騰し、生糸、スフ糸、人絹糸、そ毛糸等もそろって上伸するなど繊維が全面高を呈したほか、基礎薬品類、洋紙、セメント等も堅調を持続した。しかし反面、鉄鋼では4月央に一時小反発を示した条鋼類が、更月後は再び軟化し、鋼板類もジリ安を続けるなど、総じて軟調に推移し、また、非鉄、石油、板紙、木材、砂糖等も弱含み商状を続けた。

このように、鉄鋼をはじめ軟化を示す商品がかなり見出されるが、これには、官公需の出遅れによる土建関連需要の伸び悩みや、一部商品(灯油、木材)の不需求期入りなどの事情も響いているとみられ、商況の地合いは、総じてほぼ3~4月ごろと同じ状態で推移している。ただ、この間一部商品の動きには多少の変化がうかがわれる。すなわち、4月央には、一部に底値感も芽ばえ、一時下げ止まるかにみえた鉄鋼が、その後再び下落を続けているのは、需給引き締め感の和らぎが基本的な背景となっていることは言うまでもないが、目先増設完了を控えたメーカーの積極的な販売態度がこのような需給緩和感をいっそう拍車している面が少なくないとみられる。他方、綿糸については、人気の要素が大きくからんでいるとはいえ、現実の需給ひっ迫を背景に、予想外に腰の

強い騰勢が続いていることが注目され、これら主力商品の対照的な動向は最近の商況の一つの特色といえよう。なお、鉄鋼、繊維以外については、これまで軟化を続けてきた商品でこのところ反騰ないしはその値動きが小幅となっているもののみられはじめしており、現に、非鉄(銅)や硫酸等にこうした傾向がはっきりとうかがわれる。

次に、商品別の動きをやや詳しくみると、まず鉄鋼では、条鋼類は4月央に一時小反発を示したが、更月後は再び軟化し、鋼板類もジリ安を続けるなど、鉄鋼市況は総じて軟調に推移した。その背景としては、条鋼類については官公需の出遅れ、需要家の慎重な当用買い態度などから、需要が5月初めの連休明け後も期待されたほどには盛り上がりならず、特約店筋では再び気迷い人気を強め売り急ぐに至ったこと、鋼板類については、新鋭設備の稼働入りによる生産増加が、一般に需給の引きゆるみ感をもたらしただのみならず、一部メーカーの市中店売りの積極化がこれをいっそう拍車した面が少なくないとみられる。繊維では、綿糸が暴騰したのをはじめ、生糸、スフ糸、そ毛糸、人絹糸も上伸するなど、全面高商状を呈した。綿糸の暴騰については、不況カルテル撤廃後も生産の増加がはかばかしくなく(3月に前月比+4.0%のあと、4月は同-0.7%)、需給がひっ迫状態を続けていることがその基本的な背景をなしているが、さらに、こうした状況から定期市場における仕手筋の買いあおり、売り方の踏み上げ、場違い筋からの投機資金の大量流入などを招き、市場人氣が過熱化するに至ったことが、暴騰の直接的な原因をなしているとみられる。非鉄では、年初来統落をたどってきた銅は、5月央には海外相場の下げ一服と需給の引き締めり模様からようやく下げ止まりを示すに至った。他方、鉛、亜鉛は需給緩和を背景に引き続き軟弱な地合いを続けた。

石油では、重油は供給過剰傾向を背景とした販売競争の激化から、また、灯油は季節需要の剝落から、いずれも軟化した。セメントは生産水準が上昇している反面、官公需関連の引合いがこのと

ころ一服ぎみとなっていることから、上伸力はひところに比べいくぶん弱まっている。木材は、官公需の出遅れなどにより荷動きが鈍化しているうえ、産地からの入荷が漸増を続けているため、問屋段階では荷もたれ感が生じ、価格は弱含みで推移した。化学では、合成樹脂は当面の需給引き締めりにかかわらず、先行き増設完了を控えたメーカーの販売競争激化から、保含い程度で推移した。他方、基礎薬品類は総じて堅調裡に推移し、これまで軟調を続けてきた硫酸も軟化の程度は多少小幅となった。紙では、洋紙は季節需要の増加から全般に強含みを続けたが、板紙は自主減産の足並みの乱れから、弱含みで推移した。砂糖は、3月から4月にかけての相場反発をながめて、メーカーが生産増加に転じたうえ、これまで相場の上伸をささえてきた海外粗糖相場の上昇が一服ぎみとなったことから、小幅軟化を示した。

(卸売物価——統落)

本行卸売物価は、3月には前月比-0.2%と反落したあと、4月も前月比-0.5%とかなり大幅に低

下した。これは、窯業製品(セメントかわら、スレート)、紙・パルプ(上質印刷用紙、クラフトパルプ)、機械器具(精紡機、天井走行クレーン)、雑品目(畳表、大豆かす)等が上昇したものの、非鉄、鉄鋼が大幅に統落したほか、食料品(鶏卵、牛肉)、石油・石炭(灯油、重油)等もそろって反落したためである。なお、非鉄、食料を除いても前月比-0.1%の小幅統落となった。しかし、5月の動きをみると、上旬は前旬比+0.1%と6旬ぶりに上昇したあと、中旬もその水準で保含うなど、3月から4月にかけての軟化商状はこのところ多少回復ぎみとなっている。

(消費者物価——着落きぎみ)

4月の消費者物価(東京)は、前月比保含いとなった。例年4月にかなりの騰勢を示す消費者物価が、このような落ち着いた動きを示したのは、授業料、月謝等を主とする雑費の上昇(+1.3%)が例年4月に比べ小幅にとどまったうえ、食料(くだもの、鶏卵)の反落、需要期明けによる衣料(冬背広等)や灯油の値下がりなどが重なったためである。

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位・%)

	ウエイト	下降期 (ピーク 38/11) 38/11 →40/7	上昇期 (ボトム 40/7) 40/7 →42/4	最 近 の 推 移							
				42 年			42 年 4 月			42年5月	
				2 月	3 月	4 月	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	
総 平 均	100.0	- 0.7	+ 6.2	+ 0.1	- 0.2	- 0.5	- 0.2	- 0.1	保 合	+ 0.1	
食 料 品	16.4	- 0.4	+ 5.4	+ 0.1	+ 0.2	- 0.4	- 0.3	保 合	保 合	+ 0.3	
織 維 品	12.9	- 8.0	+ 11.0	+ 0.2	+ 0.2	保 合	- 0.1	+ 0.3	+ 0.3	+ 0.6	
鉄 鋼	10.2	- 3.4	+ 6.8	- 0.5	- 1.6	- 1.4	- 1.1	- 0.4	+ 0.2	- 0.3	
非 鉄 金 属	4.5	+ 18.4	+ 11.0	- 0.5	- 3.2	- 4.8	- 0.8	- 2.1	- 2.8	- 0.3	
金 属 製 品	3.5	+ 4.1	+ 5.8	+ 0.3	- 0.2	- 0.2	- 0.2	保 合	+ 0.1	保 合	
機 械 器 具	20.2	- 0.6	+ 1.1	保 合	+ 0.1	+ 0.2	+ 0.2	保 合	保 合	保 合	
石 油・石 炭	5.2	+ 1.0	- 2.5	+ 0.2	+ 0.1	- 0.2	- 0.1	保 合	- 0.2	- 0.1	
木 材・同 製 品	6.1	- 2.7	+ 26.3	+ 0.4	保 合	+ 0.1	- 0.1	+ 0.3	+ 0.1	- 0.1	
窯 業 製 品	3.0	- 0.8	+ 6.0	+ 0.4	+ 0.5	+ 0.4	+ 0.4	+ 0.1	保 合	保 合	
化 学 品	7.4	+ 1.9	- 2.9	- 0.5	- 0.5	+ 0.1	+ 0.3	保 合	保 合	+ 0.1	
紙・パルプ	3.3	- 0.3	+ 3.8	保 合	+ 0.1	+ 0.2	保 合	保 合	+ 0.4	+ 0.1	
雑 品 目	7.5	+ 1.1	+ 5.7	+ 0.6	+ 0.6	+ 0.2	+ 0.2	+ 0.1	- 0.3	+ 0.3	
工 業 製 品	79.5	- 1.4	+ 4.9	- 0.1	- 0.2	- 0.2	- 0.1	- 0.1	保 合	+ 0.1	
非 工 業 製 品	20.5	+ 1.5	+ 11.3	+ 0.4	- 0.3	- 0.9	- 0.2	- 0.2	- 0.2	+ 0.2	
非鉄・食料を除く 総 平 均	79.1	- 1.8	+ 6.2	+ 0.1	- 0.1	- 0.1	- 0.1	保 合	+ 0.1	+ 0.1	

(注) 本行調べ、35年基準指数による。

もっとも季節商品を除いてみると、前月比+0.4%と例年4月の上げ幅(39年+1.4%、40年+0.8%、41年+1.3%)には達しないにしても、騰勢が続いている。

ちなみに全国消費者物価の動きをみると、3月は前月比+0.2%となり、この結果41年度平均では東京並みの前年度比+4.7%(季節商品を除いても+4.7%)と40年度平均の上昇率+6.4%(季節商品を除くと+6.1%)をかなり下回った。これは、主として野菜、魚介等の食料の上昇幅が前年度に比べかなり小さかったことによるもので、住居、雑費関係等は依然根強い騰勢を持続した。なお、4月の本行小売物価(東京)は、前月比+0.2%(生鮮食品を除くと+0.1%)の上昇となった。

(輸出入物価——輸出入物価、輸入物価とも続落)

4月の本行輸出入物価は前月比-0.2%と続落した。木材(木製食器、合板)が上昇したものの、織

維(綿織物の引合い低調)、食料(冷凍まぐろ)、化学(硫酸のインド向け安値成約)、等が下落したためである。他方、輸入物価も前月比-0.4%と続落した。食料(粗糖)、化学(牛脂)の上昇にもかかわらず金属(銅系地金、鉄くず)、鉱物(鉄鉱石、銅鉱)が大幅に下落したためである。以上の結果、交易条件指数は前月比+0.2%とわずかながら好転した。

◆国際収支の逆調続

4月の国際収支は、総合で82百万ドルの赤字と前月(68百万ドルの赤字)に引き続き相当の逆調となり、また前年同月比でも、86百万ドルの大幅悪化となった。これは、主として貿易収支の黒字がかなり減少したうえ、長期資本収支の赤字も増大したことによる。貿易収支は、輸出が依然として年初来の伸び悩み傾向を改めていない一方、輸入は引き続きかなりの高水準を続けているため、116百万ドルの黒字と、相変わらず従来の不調を脱するに至っていない。最近における季節調整後の貿易収支戻の推移をみると、1月以降漸次縮小してきた黒字幅は、当月にはやや拡大したが、な

消費者・小売・輸出入物価の推移

(単位・%)

	ウエイト	前年度比 上昇率		最近の推移			前年 4月 比	
		40年度 平均	41年度 平均	42年				
				2月	3月	4月		
消費者物価 (東京)	総合 (季節商品を除く)	100.0	+6.8	+4.7	+0.5	+0.4	保合	+3.0
		91.4	+6.2	+4.9	-0.1	+0.3	+0.4	+2.6
	食料	40.9	+8.1	+3.0	+1.4	+0.3	-1.0	+2.8
	住居	10.7	+4.4	+5.7	+0.3	+0.5	+0.5	+5.7
	光熱	4.5	+0.4	0.0	+0.1	-0.1	-0.2	-0.6
	被服	13.0	+3.8	+3.6	-1.4	+1.1	-0.2	+3.4
	雑費	31.0	+7.5	+7.9	+0.2	+0.2	+1.3	+2.7
	総合 (季節商品を除く)	100.0	+6.4	+4.7	+0.5	+0.2	+0.3	+3.1
	91.4	+6.1	+4.7	-0.1	+0.2	+0.5	+2.6	
	口5万以上 小売物価	総合 (季節商品を除く)	100.0	+7.4	+4.6	+0.5	+0.2	+0.3
91.3	+7.0	+4.6	-0.2	+0.4	+0.2	+2.3		
小売物価 (東京)	総合 (生鮮食品を除く)	100.0	+4.2	+2.5	+0.2	+0.2	+0.2	+2.5
94.3	+3.7	+2.0	-0.2	+0.3	+0.1	+2.1		
輸出入物価 (契約ベース)	輸出		-0.7	+1.4	-0.8	-0.6	-0.2	+1.0
	輸入		-1.0	+0.7	+0.8	-0.5	-0.4	-1.8
	交易条件		+0.3	+0.6	-1.6	-0.1	+0.2	+2.9

(注) 消費者物価(40年基準)は総府調べ、小売物価(40年基準)、輸出入物価(35~37年基準)は本行調べ。

国際収支

(単位・百万ドル)

	41年		42年		42年			前年 4月
	7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月	4月		
経常収支	159	166	△56	35	△14	5	55	
貿易収支	230	255	50	120	135	116	149	
輸出	833	921	743	790	877	842	767	
輸入	603	666	692	670	742	726	618	
貿易外収支	△63	△73	△86	△76	△107	△96	△79	
移転収支	△8	△15	△21	△9	△42	△15	△15	
長期資本収支	△73	△102	△63	△42	△77	△72	△25	
短期資本収支(注1)	△4	△17	30	14	51	48	7	
誤差脱漏	△5	△30	△6	7	△28	△63	△33	
総合収支	78	17	△95	14	△68	△82	4	
金融勘定(注2)	78	17	△95	14	△68	△82	4	
外貨準備増減	△20	10	1	△2	27	15	△11	
その他	98	7	△96	16	△95	△97	15	

(注1) 金融勘定に属するものを除く。

(注2) 金融勘定の△印は純資産の減少。

各期月平均。

輸出入指標(季節調整済み)の推移

(単位・百万ドル)

	国際収支			通 関		信 用 状			輸出	輸入
	輸出	輸入	貿易	輸出	輸入	輸出	輸入	差	承認	承認
41年										
4～6月	777	594	183	787	762	656	342	314	828	702
7～9月	808	632	176	817	810	669	355	314	841	776
10～12月	851	673	178	868	864	679	381	298	885	817
42年										
1～3月	830	686	144	848	908	675	394	281	905	866
41年12月	870	668	202	898	857	693	390	303	868	844
42年1月	846	683	163	863	911	687	378	309	903	818
2月	829	673	156	851	893	656	398	258	915	885
3月	815	701	114	828	919	683	404	279	896	896
4月	854	705	149	863	906	665	372	293	867	821

(注) 季節調整はセンサス局法による。各期月平均。

お1～3月平均並みの水準にとどまっている。貿易収支の先行きについては、先行指標面で輸出の伸び悩みと輸入の根強い増勢が続いていることなどからみて、当面早急な好転は期待しがたいように思われる。資本収支では、長期資本は輸出延払信用供与の増加から、72百万ドルの流出超となったが、短期資本は、BCユーザンスの増加を主因に48百万ドルの受超となった。

金融勘定では、前月と同様、為替銀行の対外ポジションが大幅に悪化した反面、外貨準備は15百万ドルの増加となった。このところ、総合収支がかなりの赤字を続けているにもかかわらず、外貨準備が増加したのは、海外金利安から輸入ユーザンスの利用が増加し、ユーロ・ダラーも流入傾向を続けていることが大きく響いているものとみられる。

4月の輸出は、前年同月比で+10%と前月の伸び(同+8%)をいくぶん上回り、季節調整後も前月に比べ5%の増加となった。通関統計によって商品別の動向をみると、自動車、船舶、ラジオ、合繊織物等が引き続き高い伸びを示している。なかでも船舶は引渡しが当月にやや集中したこともあって増勢が目立ち、これが当月の輸出を多少持直しぎみにしている点は見のがせない。しかし、その他の商品は総じて伸び悩んでおり、鉄鋼をは

じめ、綿・スフ織物、合繊綿、食料品、合板等前年同月の水準を下回っている商品も少なくない。

先行指標面では、4月の信用状、輸出認証ともほぼ前年同月の水準にとどまり、依然として停滞傾向が続いている。仕向先別には、アジア向けは比較的順調であるが、主力の米国向けは前年同月比-4%(信用状)とやや停滞色を増している。こうした状況からみて、輸出が伸び悩み状態を脱することは当面むずかしいように思われる。

一方、輸入は、前年同月比で+18%、季節調整

輸出信用状の内訳

(単位・百万ドル)

	41 年			42 年		
	7～9月	10～12月	1～3月	2月	3月	4月
合 計	683 (+ 14)	664 (+ 10)	664 (+ 5)	598 (- 1)	771 (+ 6)	645 (+ 0)
食 料 品	29 (- 6)	30 (+ 18)	26 (- 10)	25 (- 6)	25 (- 35)	24 (+ 5)
水 産 品	21 (- 7)	21 (+ 19)	18 (- 12)	17 (- 3)	18 (- 34)	15 (- 5)
織 維 製 品	130 (+ 11)	128 (+ 6)	117 (+ 4)	104 (- 4)	134 (+ 7)	102 (- 7)
綿 製 品	29 (- 4)	25 (- 4)	21 (- 20)	18 (- 35)	24 (- 12)	16 (- 30)
化学製品	48 (+ 11)	48 (+ 15)	50 (+ 1)	44 (- 22)	64 (+ 30)	55 (+ 7)
肥 料	13 (+ 4)	9 (- 13)	12 (- 26)	10 (- 60)	20 (+ 64)	13 (- 27)
金属製品	143 (+ 3)	134 (+ 2)	141 (- 2)	121 (- 6)	163 (- 7)	134 (- 0)
鉄 鋼	131 (+ 5)	125 (+ 8)	129 (- 2)	110 (- 8)	150 (- 8)	126 (+ 0)
機 械	193 (+ 31)	188 (+ 16)	195 (+ 15)	181 (+ 10)	223 (+ 23)	191 (+ 3)
船 舶	10 (+ 41)	6 (- 16)	9 (- 6)	4 (- 20)	13 (+ 51)	3 (- 61)
自 動 車	36 (+ 16)	43 (+ 4)	51 (+ 17)	47 (+ 26)	57 (+ 22)	54 (+ 2)
そ の 他	139 (+ 16)	137 (+ 9)	135 (+ 3)	123 (+ 4)	162 (+ 2)	140 (- 1)
米 国	269 (+ 22)	262 (+ 12)	263 (+ 1)	241 (+ 0)	304 (- 0)	265 (- 4)
ア ジ ア	208 (+ 22)	196 (+ 10)	196 (+ 15)	171 (- 4)	229 (+ 25)	192 (+ 9)
ヨーロッパ	69 (- 9)	67 (- 3)	75 (- 8)	66 (- 4)	80 (- 16)	68 (- 4)
そ の 他	137 (+ 5)	139 (+ 10)	130 (+ 6)	121 (+ 5)	158 (+ 10)	120 (- 1)

(注) カッコ内は対前年同期(月)比増減率(%). 各期月平均。

輸入承認品目別内訳

(単位・百万ドル)

後の前月比で+1%と引き続き水準を高めた。もっとも、その増加テンポはこのところ多少鈍化きみとなっているようにかがわれる。すなわち、輸入の対前年同期比増加率の推移をみると、41年10~12月+25%、42年1~3月+22%、4月+17%と年初来多少低下傾向を示している。これは、鉄鋼原料(鉄鉱石、くず鉄、銑鉄、石炭等)、木材、原油、完成消費財等が概して根強い増勢を続けているなかであって、大豆、銅地金等がいくぶん減少傾向をみせていることが響いている。大豆については、昨年海外価格の上昇に伴う買急ぎにより夏場から秋にかけて輸入が大幅に増加し、このため過剰となった在庫の調整が進められていること、銅地金については、昨春急騰をみた海外価格がその後漸落をみ、輸入価格が次第に落ち着いてきていることを映じたものとみられる。

先行指標の輸入承認は、前年同月比+25%と、これまでとほぼ同程度の増加を示した。当月の輸入承認中には大口機械(原子力発電機、借款による輸入)の一時的な輸入が含まれているが、これを除いてみてもかなりの高水準にあり、目先輸入は引き続き底堅い足取りを示すものと予想される。

	41 年		42年	42 年		
	7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月	4月
食料品	136 (+ 17)	147 (+ 10)	148 (+ 15)	135 (+ 12)	163 (+ 9)	153 (+ 3)
原燃料	428 (+ 24)	476 (+ 25)	473 (+ 18)	448 (+ 18)	550 (+ 17)	449 (+ 15)
羊毛	33 (+ 27)	34 (- 8)	32 (- 7)	31 (- 9)	37 (- 2)	29 (- 10)
綿花	32 (+ 19)	30 (+ 1)	44 (+ 14)	42 (+ 11)	50 (+ 19)	29 (- 12)
鉄鉱石	42 (+ 16)	43 (+ 48)	45 (+ 25)	40 (+ 16)	56 (+ 20)	47 (+ 42)
鉄鋼くず	14 (+ 15)	23 (+ 212)	26 (+ 236)	24 (+ 216)	34 (+ 247)	29 (+ 280)
非鉄金属	22 (+ 75)	24 (+ 53)	22 (+ 38)	22 (+ 36)	24 (+ 32)	23 (+ 38)
木材	55 (+ 39)	61 (+ 44)	58 (+ 31)	52 (+ 33)	71 (+ 43)	61 (+ 18)
石炭	21 (+ 12)	23 (+ 37)	26 (+ 35)	24 (+ 39)	30 (+ 42)	23 (+ 43)
石油	92 (+ 12)	103 (+ 14)	109 (+ 10)	99 (+ 11)	127 (+ 14)	99 (+ 10)
化学製品	43 (+ 16)	49 (+ 21)	50 (+ 25)	45 (+ 12)	59 (+ 38)	51 (+ 25)
機械	59 (+ 20)	71 (+ 37)	68 (+ 49)	68 (+ 78)	75 (+ 46)	92 (+ 117)
鉄鋼	16 (+ 52)	26 (+ 235)	31 (+ 22)	33 (+ 330)	28 (+ 233)	36 (+ 218)
その他	61 (+ 13)	74 (+ 59)	81 (+ 62)	75 (+ 75)	95 (+ 45)	98 (+ 47)
合計	743 (+ 21)	842 (+ 27)	851 (+ 26)	803 (+ 28)	969 (+ 23)	878 (+ 25)

(注) カッコ内は対前年同期(月)比増減率(%). 各期月平均。